



Parallels Remote Application Server

Linux 用 Parallels Client ユーザーガイド

v15

Parallels IP Holdings GmbH
Vordergasse 59
8200 Schaffhausen
スイス

Tel : + 41 52 632 0411

FAX : + 41 52 672 2010

www.parallels.com/jp

Copyright © 1999-2016 Parallels IP Holdings GmbH and its affiliates. All rights reserved.

この製品は、米国著作権法および国際著作権条約およびその他の知的所有権条約によって保護されています。製品の基本となる技術、特許、および商標は、<http://www.parallels.com/jp/trademarks> に一覧表示されています。

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows NT、Windows Vista、および MS-DOS は、Microsoft Corporation の登録商標です。

Apple、Mac、Mac ロゴ、Mac OS、iPad、iPhone、iPod touch、FaceTime HD カメラおよび iSight は米国およびその他の国における Apple Inc. の商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

ここに記載したその他のマークおよび名前は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

目次

スタートアップ	5
システム要件	5
Linux 用 Parallels Client のインストール	5
Linux 用 Parallels Client の構成	9
アップデートの確認	10
Linux 用 Parallels Client の使用	12
新しい接続の追加	12
RAS 接続の構成	15
接続	16
表示	19
印刷	21
ローカルリソース	24
エクスペリエンス	25
ネットワーク	26
認証	26
詳細設定	27
RDP 接続の構成	28
接続	29
表示	31
ローカルリソース	33
プログラム	34
エクスペリエンス	35
ネットワーク	36
認証	36
詳細設定	37

グローバルオプションの構成.....	39
RAS 接続の使用.....	42
RDP 接続の使用.....	43
Parallels Client 設定のエクスポートおよびインポート.....	43
Parallels Client コマンドラインインターフェース.....	44
一般オプション.....	44
RDP オプション.....	45
デバイスオプション.....	46
その他のオプション.....	48
例.....	48
インデックス.....	50

第 1 章

スタートアップ

この章の内容

システム要件.....	5
Linux 用 Parallels Client のインストール.....	5
Linux 用 Parallels Client の構成.....	9
アップデートの確認.....	10

システム要件

Parallels Client は、次の Linux ディストリビューションで認定されています。

x86/x64

- Ubuntu 12.04 LTS
- Ubuntu 14.04 LTS
- Open Suse 12.3
- OpenSuse 13.2
- Fedora 20
- Xubuntu 15.10

Linux 用 Parallels Client のインストール

システム管理者から、Linux 用 Parallels Client のインストールと Parallels Remote Application Server

接続の構成の手順が記載された招待メールが届きます。招待メールには、以下の情報とアクションリンクが含まれます。

- システム管理者からのメッセージ。
- Linux 用 Parallels Client をダウンロードするためのリンク（Linux コンピューターに加えて他のデバイスも使用している場合は他のプラットフォーム用の Parallels Client へのリンクも含まれていることがあります）。

スタートアップ

- ユーザーのコンピューター上で Parallels Client を自動的に構成するためのリンク。これにより、Parallels Remote Application Server に接続できます。
- Parallels Remote Application Server 接続のプロパティ。この情報を使用して Parallels Remote Application Server 接続を手動で作成できます。推奨される最も簡単な方法はリンクを使用して自動構成すること（上記を参照）ですが、何らかの理由により接続を手動で作成する必要がある場合は、この情報を使用できます。

招待メールを使用して Linux 用 Parallels Client をインストールするには、次の操作を実行します。

- 1 管理権限を持つユーザーとしてコンピューターにログインしていることを確認します。
- 2 招待メール内の Linux サムネイルをクリックし、Linux 用 Parallels Client のインストーラーをダウンロードします。
- 3 インストーラーをダウンロードして、ローカルに保存します。

インストール手順 - GUI

GUI によるインストールは、DEB および RPM バージョンでのみ有効です。

- デフォルトのパッケージインストーラーを使用してパッケージをインストールします。

インストール手順 - CLI

DEB バージョン

Parallels Client をインストールするには、root ユーザーになってコマンドプロンプトに次のように入力します。

```
dpkg -i 2XClient.deb
```

依存関係が存在しないためインストールに失敗する場合は、次のコマンドを使用して依存関係をインストールします。

```
apt-get -f install
```

これで、Linux 用 Parallels Client のバイナリが次のディレクトリにインストールされます。

```
/opt/2X/Client/bin
```

次のコマンドを実行して、Parallels Client を起動します。

```
/opt/2X/Client/bin/2XClient
```

次のコマンドを実行すると、Parallels Client セッションのすべての使用量パラメーターの一覧を取得できます。

```
cd /opt/2X/Client/bin
/appserverclient -?
```

RPM バージョン

- Parallels Client をインストールするには、root ユーザーになって次のコマンドを入力します。

```
rpm - ivh 2XClient.i386.rpm
```

これで、Parallels Client バイナリが次のディレクトリにインストールされます。

```
/opt/2X/Client/bin
```

次のコマンドを実行して、Parallels Client を起動します。

```
/opt/2X/Client/bin/2XClient
```

次のコマンドを実行すると、Parallels Client セッションのすべての使用量パラメーターの一覧を取得できます。

```
cd /opt/2X/Client/bin
/appserverclient -?
```

.TAR.BZ2 バージョン

Parallels Client をインストールするには、root ユーザーになって、root ディレクトリに移動します。

```
cd /
```

インストールするには、次のコマンドを入力します。

```
tar jxvf 2XClient.tar.bz2
```

これで、Parallels Client バイナリが次のディレクトリにインストールされます。

```
/opt/2X/Client/bin
```

アイコン、MIME タイプ、URL

スキーマ、およびデータベースの構成を登録するために、インストール後スクリプトを起動しておくことをお勧めします。インストール後スクリプトは次の場所にあります。/opt/2X/Client/scripts/install.sh

次のコマンドを実行して、Parallels Client を起動します。

```
/opt/2X/Client/bin/2XClient
```

次のコマンドを実行すると、Parallels Client セッションのすべての使用量パラメーターの一覧を取得できます。

```
cd /opt/2X/Client/bin
/appserverclient -?
```

インストール中に登録したコンポーネントを登録解除するには、次の場所にあるアンインストールスクリプトを起動することをお勧めします。/opt/2X/Client/scripts/uninstall.sh

SSO（シングルサインオン）インストール手順

Parallels Client のインストールに使用したパッケージに応じて、SSO インストールの手順も異なります。

Parallels Client パッケージに含まれているパッケージ:

- TAR パッケージ - /opt/2X/Client/scripts/install.sh スクリプトを実行します。
- RPM パッケージ - 手動によるインストールが必要です。

Parallels Client とは別のパッケージ:

- Debian パッケージ - Parallels Client
が事前にインストールされている必要があります。デフォルトのパッケージインストーラーを使用してパッケージをインストールします。

手動によるインストール手順（RPM が必要）

pam_2xclient.so モジュールをインストールして、Parallels Client のシングルサインオンを使用可能にします。

このファイルは、使用するパッケージに関係なく、/opt/2X/Client/lib/security/pam_2xclient.so に保存されています。

このモジュールは常に true を返し、上位の認証モジュールによって与えられる認証トークンを使用します。

注意: 上位の認証モジュールが SUFFICIENT に設定されていると、そのモジュールは正常終了すると即座に復帰するため、pam_2xclient.so は呼び出されません。SUFFICIENT を REQUIRED に変更してください。

セッション管理サービス（例: /etc/pam.d/gdm）に次の 2 行を追加して、Parallels Client PAM モジュールをインストールします。

```
auth optional pam_2xclient.so
password optional pam_2xclient.so
```

モジュールの引数:

Debug: デバッグトレースが tmp/pam_2xclient.log に出力されます。このファイルを開くことができない場合は、syslog が使用されます。

Debug 引数は、すべてのモジュールタイプで使用できます。例: Session optional pam_2xclient.so debug

- モジュールは、良く知られたセッションサービスについてののみ SSO クッキーを作成します。
- 許可するサービス群を変更することもできます。例: `auth optional pam_2xclient.so gdm kde kdm-kde4`

Linux 用 Parallels Client の構成

コンピューターに Linux 用 Parallels Client をインストールしたら、Parallels Client を構成して、Parallels Remote Application Server に接続できるようにする必要があります。

Parallels Client を構成するには、次の操作を実行します。

- 1 システム管理者から届いた招待メールで、[構成] セクションを探し、[ダウンロードされたクライアントを自動構成するにはこちらをクリックしてください] リンクをクリックして、指示に従います。
- 2 構成が完了すると、Parallels Client が開き、Parallels Remote Application Server にログインするよう求められます。



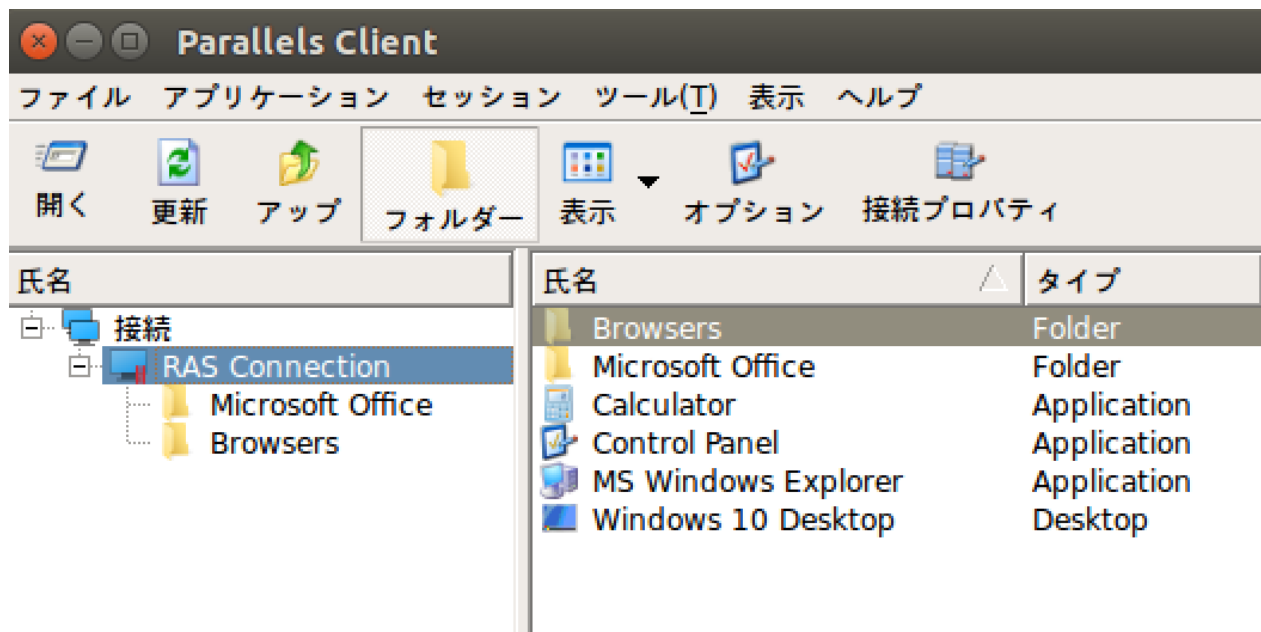
- 3 次のいずれかの [認証タイプ] を選択します。
 - 資格情報: ドメインユーザー名とパスワードなど、資格情報を入力して Parallels Remote Application Server に接続するには、このオプションを選択します。
 - スマートカード: スマートカードを使用して Parallels Remote Application Server に接続するには、このオプションを選択します。

スタートアップ

- シングルサインオン: Parallels Client のインストール時に [シングルサインオン] モジュールをインストールした場合のみ、このオプションがリストに含まれます。ローカルシステムの資格情報を使用してリモートサーバーに接続するには、このオプションを選択します。

管理者向けの注記: 許可された認証タイプを RAS Console の [接続] / [確認証明] で指定する必要があります。

- 4 選択した認証タイプに応じて、ユーザー名とパスワードを入力するか、スマートカードをリーダーに挿入します。スマートカードを使用する場合、PIN を入力します (要求された場合)
- 5 [接続] をクリックします。ログインに成功すると、メインの Parallels Client ウィンドウが開き、使用可能な公開済みのリソースが表示されます。



リソースを開くには、公開フォルダーツリーに移動し、使用するリソースをダブルクリックして開きます。新しいウィンドウにリソースが開いたら、そのリソースをローカルコンピュータ上で稼働しているリソースと同じように使用できるようになります。

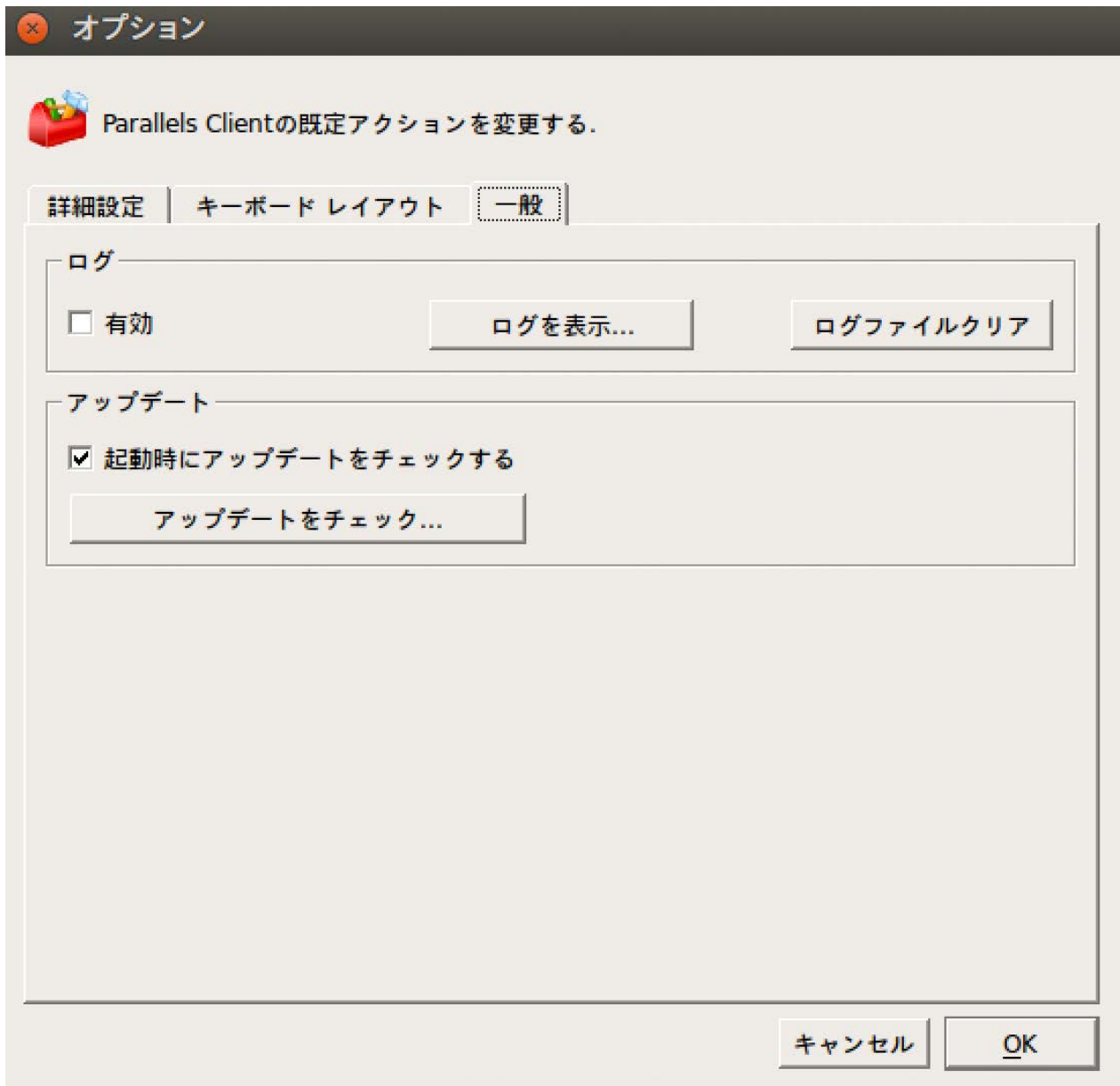
アップデートの確認

Linux 用 Parallels Client

の利用可能な最新バージョンを確認するには、次の操作を実行します。

- 1 メインの Linux 用 Parallels Client ウィンドウで、[オプション] ツールバーアイテムをクリックします。

- 2 [オプション] ダイアログが開いたら、[一般] タブをクリックします。



- 3 [アップデートをチェック] ボタンをクリックして、Linux 用 Parallels Client の新しいバージョンが利用可能かどうか確認します。
- 4 [起動時にアップデートをチェックする] オプションを選択して、Parallels Client を開くたびにアップデートが利用可能かどうか確認することもできます。

第 2 章

Linux 用 Parallels Client の使用

この章の内容

新しい接続の追加.....	12
RAS 接続の構成.....	15
RDP 接続の構成.....	28
グローバルオプションの構成.....	39
RAS 接続の使用.....	42
RDP 接続の使用.....	43
Parallels Client 設定のエクスポートおよびインポート.....	43
Parallels Client コマンドラインインターフェース.....	44

新しい接続の追加

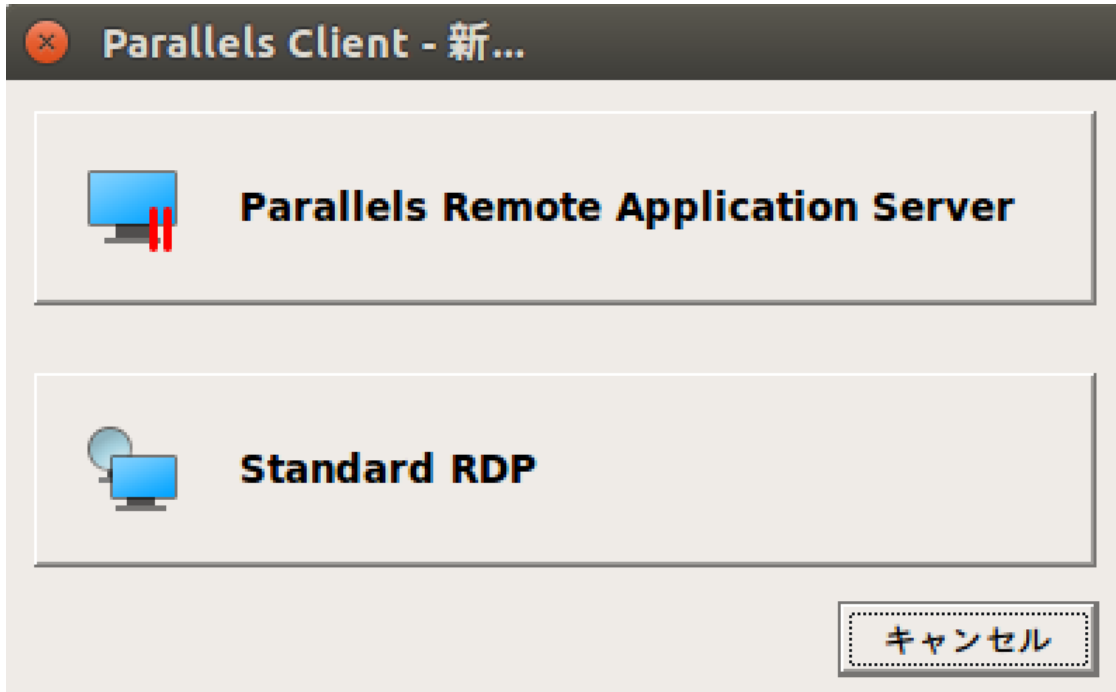
Parallels Client

では、複数の接続を作成できるため、簡単に別のサーバー接続に切り替えたり、さまざまな接続プロパティを使用したりできます。

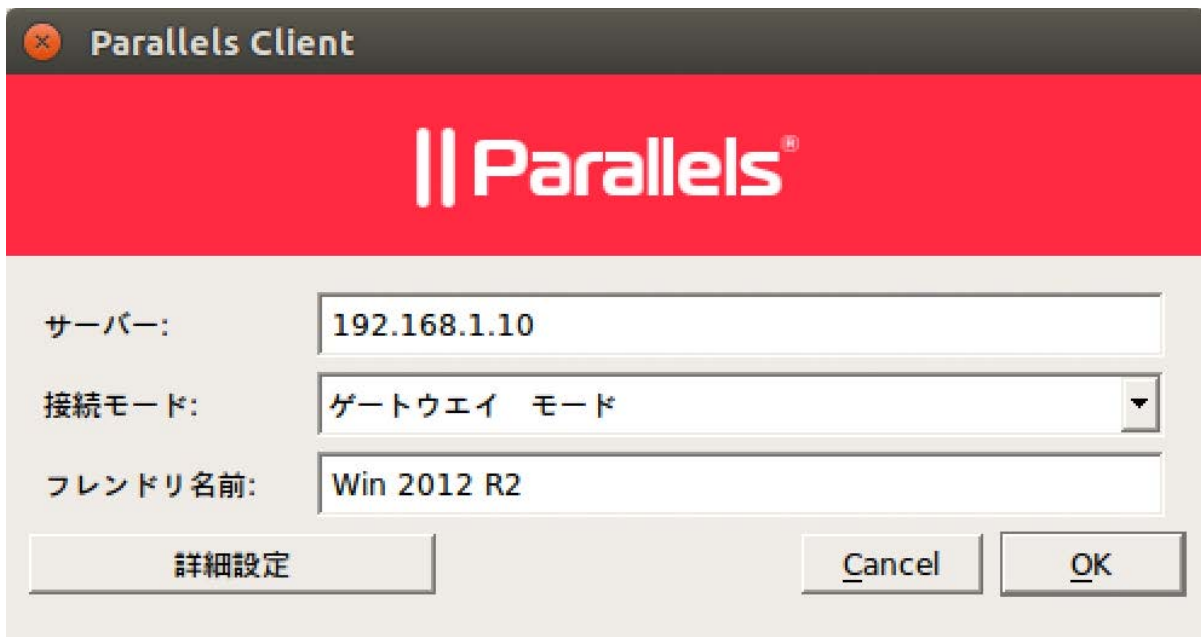
接続を手動で追加するには、次の操作を実行します。

- 1 メインメニューで、[ファイル] > [新しい接続を追加] をクリックします。
- 2 作成する接続のタイプを選択します。
 - Parallels Remote Application Server 接続を作成するには、[Remote Application Server] をクリックします。このタイプの接続を作成すると、Parallels Remote Application Server で公開済みのアプリケーション、ドキュメント、またはデスクトップを使用できます。

- 標準のリモートデスクトップ接続を作成するには、[標準 RDP] をクリックします。このタイプの接続を作成すると、標準のリモートデスクトップ接続を受け入れる任意のリモートコンピューターに接続できます。



- 3 次の画面で、接続プロパティを入力します。



Remote Application Server

接続を作成するときは、システム管理者がユーザーに、このダイアログボックスで指定する必要のある接続情報を提供する必要があります。管理者から招待メールを受け取った場合は、この情報をメッセージの下部で確認できます。次のような情報が表示されます。

RAS 接続を手動で構成するには、次の設定を使用します。

サーバー: 192.168.1.10

ポート: 443

接続モード: ゲートウェイモード

標準 RDP 接続を作成するときは、接続先のリモートコンピューターの IP アドレスまたはホスト名を知っている必要があります。

- 4 [サーバー] フィールドに、Parallels Remote Application Server の IP アドレスまたはホスト名を入力します（これは、RAS Secure Client Gateway が稼働しているサーバーです）。標準 RDP 接続を作成するときは、リモートコンピューターの IP アドレスまたはホスト名を指定します。
- 5 [接続モード] ドロップダウンリストは、Remote Application Server 接続の作成時にのみ有効になります。次のいずれかを選択します。
 - ゲートウェイモード: Parallels Client は RAS Secure Client Gateway に接続し、セッション接続は最初に利用可能な接続を介してトンネリングされます。ゲートウェイを介してのみ到達可能で、高レベルのセキュリティを必要としないサーバーには、このモードが最適です。
 - SSL モード:
上記のゲートウェイモードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。
 - ダイレクトモード: Parallels Client
によって利用可能で最適なターミナルサーバーにアクセスするために最初に RAS Secure Client Gateway に接続され、次にそのターミナルサーバーに直接接続されます。Parallels Client とターミナルサーバーが同一ネットワーク上に存在する場合、これが最も適しています。
 - ダイレクト SSL モード:
上記のダイレクトモードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。
- 6 [フレンドリ名前] フィールドでは、この接続のフレンドリ名前を選択して入力します。
- 7 [詳細設定] ボタンをクリックすると、[接続プロパティ] ダイアログボックスが開き、追加の接続プロパティを指定できます。詳細については、「RAS 接続の構成」(p. 15) または「RDP 接続の構成」(p. 28) を参照してください。
- 8 [OK] をクリックして、接続を作成します。

RAS 接続の構成

既存の Remote Application Server 接続のプロパティを変更するには、メインの Parallels Client ウィンドウで RAS 接続を右クリックして、コンテキストメニューの [接続プロパティ] をクリックします。[接続プロパティ]

ダイアログボックスが開きます。ダイアログボックス内でタブページを使用してプロパティが機能ごとにグループ化されています。次のサブセクションでは、各タブページについて詳しく説明します。

接続

[接続] タブページでは、接続設定とログオン情報を指定できます。

The screenshot shows the 'RAS Connection Properties' dialog box for a new RAS connection. The 'Connection' tab is selected. The 'Connection Settings' section includes fields for 'Primary Connection' (192.168.1.10), 'Connection Mode' (SSL Mode), 'Port' (443), and 'Friendly Name'. There is a button for 'Secondary Connection...'. The 'Logon' section includes a checkbox for 'Auto Logon', a dropdown for 'Authentication Type' (Credentials), and input fields for 'Username', 'Password', 'Domain', and a checkbox for 'Save Password'.

の接続プロパティ - 新しいRASの接続

接続 | ディスプレイ | 印刷中 | ローカル リソース | エクスペリエンス

接続設定

プライマリ接続: 192.168.1.10

接続モード: SSL モード

ポート: 443

セカンダリ接続...

フレンドリ名前:

ログオン

☐ オートログオン

認証タイプ: クレデンシャル

ユーザー名:

パスワード:

☒ 保存パスワード

ドメイン:

キャンセル OK

プライマリ接続の構成

[接続] タブページでは、1 つのプライマリ接続と 1 つ以上のセカンダリ接続を定義できます。

プライマリ接続は、指定したサーバーへの接続に Parallels Client が最初に使用する接続です。このサーバーではプライマリ RAS Secure Client Gateway が実行されている必要があります。

プライマリ接続情報を指定するには、次の操作を実行します。

- 1 [プライマリ接続] フィールドで、サーバー名または IP アドレスを指定します。
- 2 [接続モード] ドロップダウンリストで、次のオプションのいずれかを選択します。
 - ゲートウェイモード: Parallels Client は RAS Secure Client Gateway に接続し、セッション接続は最初に利用可能な接続を介してトンネリングされます。ゲートウェイを介してのみ到達可能で、高レベルのセキュリティを必要としないサーバーには、このモードが最適です。
 - SSL モード:
上記のゲートウェイモードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。
 - ダイレクトモード: 最初に Parallels Client は RAS Secure Client Gateway に接続され、利用可能な最適なターミナルサーバーにアクセスします。その後、Parallels Client はその特定のサーバーに直接接続されます。Parallels Client とターミナルサーバーが同一ネットワーク上に存在する場合、これが最も適しています。
 - ダイレクト SSL モード:
上記のダイレクトモードと同じですが、暗号化を使用してデータを保護します。
- 3 [ポート]
フィールドで、ゲートウェイがどのポートで受信接続を待機するかを指定します。サーバー側でデフォルト値 (80) が変更されている場合、ここでもデフォルト値を変更する必要があります。サーバーへの接続で問題が発生する場合は、システム管理者にポート番号を問い合わせてください。
- 4 [フレンドリ名前] フィールドでは、任意の名前を選択して入力します。これにより、後で Parallels Client 内でサーバーを容易に特定できます。

セカンダリ接続の構成

接続先の Remote Application Server に複数の RAS Secure Client Gateway がある場合、セカンダリ接続を定義できます。プライマリゲートウェイの接続に失敗した場合のバックアップ接続として、セカンダリ接続を使用します。

セカンダリ接続を追加するには、次の操作を実行します。

- 1 [セカンダリ接続] ボタンをクリックします。

- 2 [セカンダリ接続] ダイアログで [追加] ボタンをクリックし、サーバー名または IP アドレスを指定します。このサーバーでは、セカンダリ RAS Secure Client Gateway がホストされている必要があります（プライマリゲートウェイはプライマリ接続で使用されます）。
- 3 [接続モード] を選択し、必要に応じてポート番号を変更します。[OK] をクリックし、もう一度 [OK] をクリックして、[接続プロパティ] ダイアログに戻ります。

ログオン情報の構成

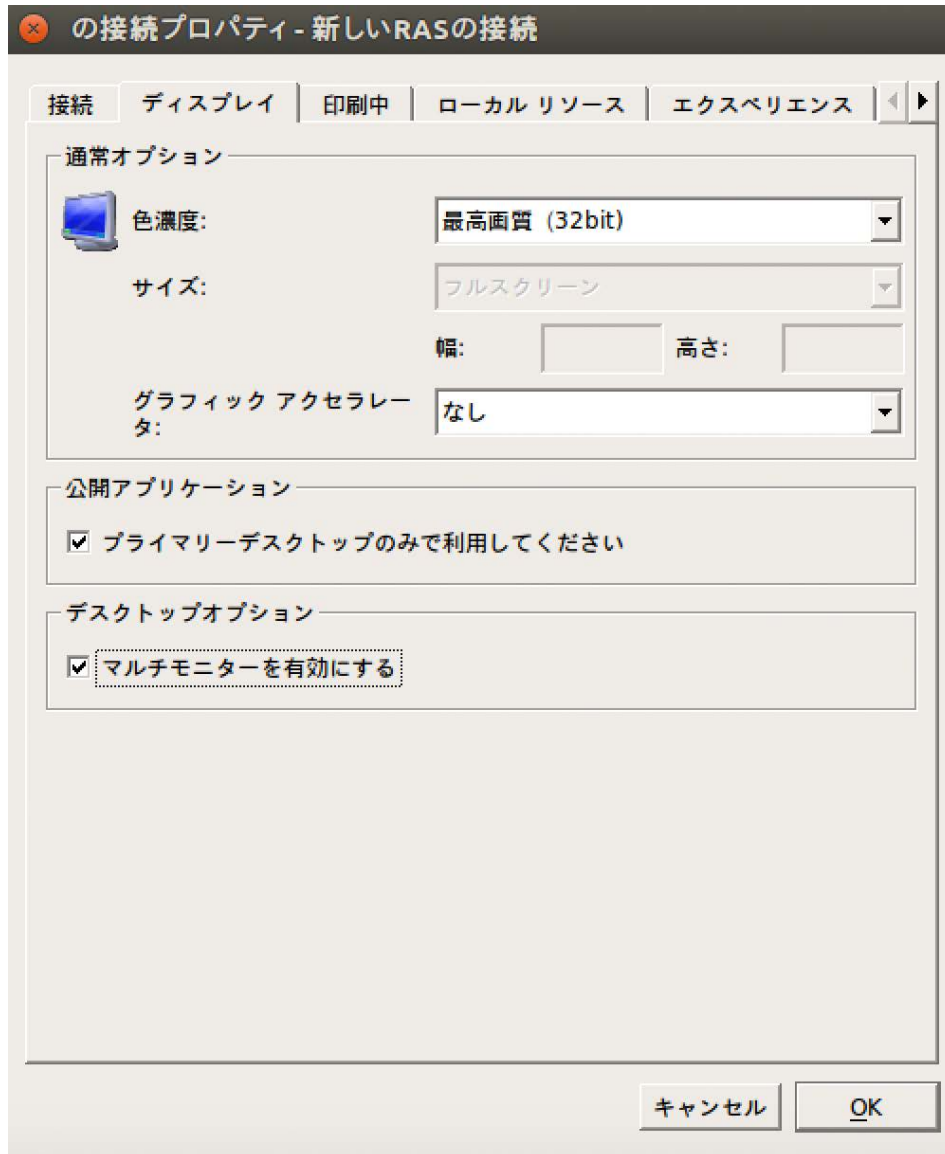
[ログオン] セクションで、次のプロパティを指定します。

- 1 [オートログオン] オプションを選択すると、Parallels Client は自動的に接続します。ユーザーがリモートサーバーに接続するたびに [ログオン] ダイアログが表示されることはありません。
- 2 [認証タイプ] ドロップダウンリストで、使用する認証方法を選択します。
 - 資格情報:
このオプションを選択し、ユーザー名、パスワード、ドメイン情報を入力します。リモートサーバーでは、この指定した資格情報を使用して認証が行われます。
 - スマートカード:
スマートカードを使用して認証を行う場合、このオプションを選択します。リモートサーバーに接続するときに、カードリーダーにスマートカードを挿入し、PIN を入力（要求された場合）します。
 - シングルサインオン: Parallels Client のインストール時に [シングルサインオン] モジュールをインストールした場合のみ、このオプションがリストに含まれます。ローカルシステムの資格情報を使用してリモートサーバーに接続するには、このオプションを選択します。

管理者向けの注記:許可された認証タイプを RAS Console の [接続] / [確認証明] で指定する必要があります。

表示

[ディスプレイ] タブページでは、表示オプションを構成できます。



[一般オプション]

セクションで、色深度、画面サイズなど、一般的な表示プロパティを指定します。カスタムの画面サイズを指定する場合、ドロップダウンリストで [カスタム] を選択し、[幅] および [高さ]

フィールドを使用してサイズを指定します。ドロップダウンリストから、使用するグラフィックアクセラレータを選択することもできます。

Linux

コンピューターに複数台のモニターを接続している場合は、[プライマリデスクトップのみで利用してください]

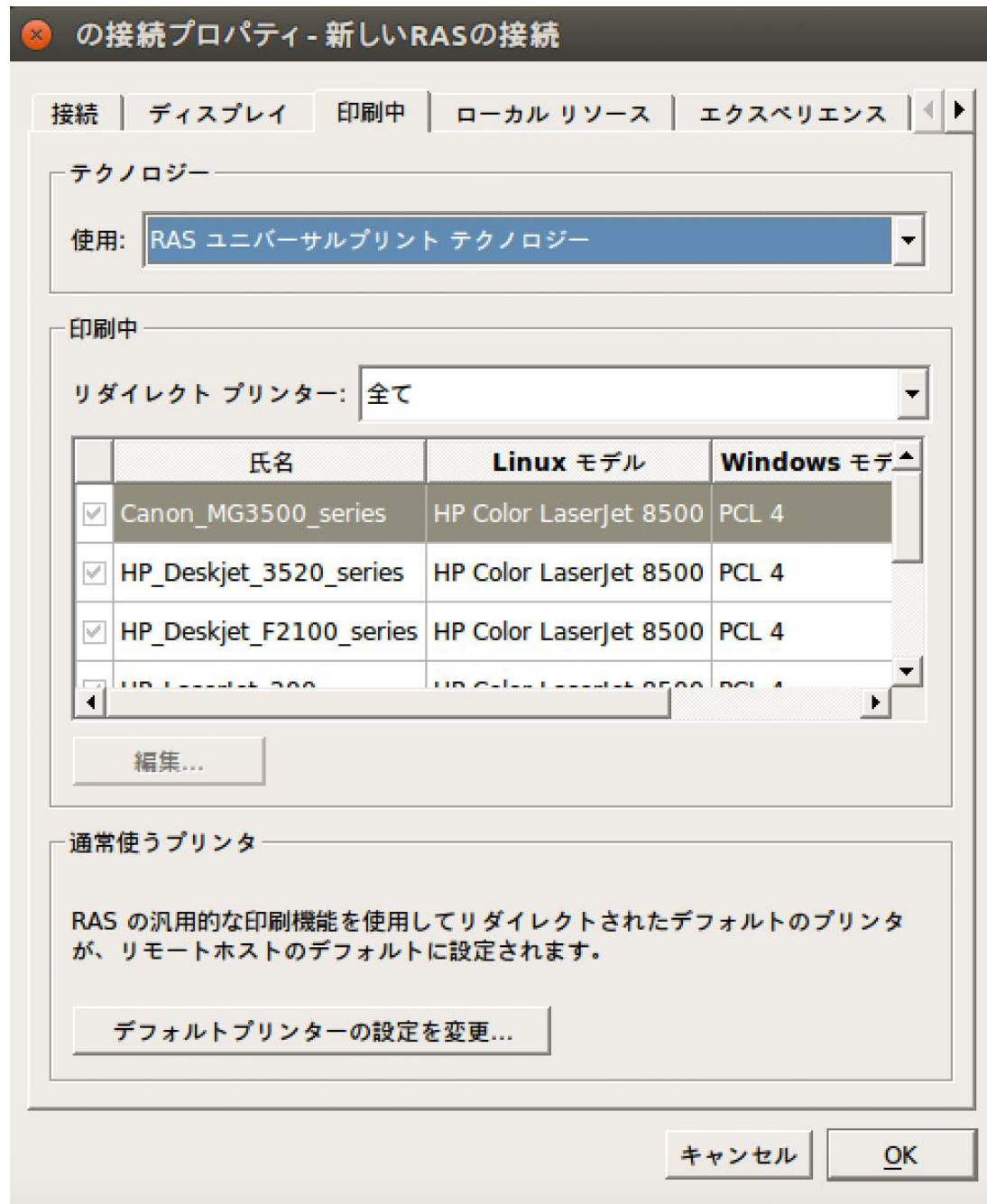
オプションを選択して、そのモニターでのみ公開済みのアプリケーションを表示できます。このオプションをオフにすると、接続しているすべてのモニターにアプリケーションを表示できます。

[マルチモニターを有効にする]

オプションを選択すると、接続しているすべてのモニターに公開デスクトップを表示できます（複数のモニターを所有している場合）。

印刷

[印刷] タブページでは、各種の印刷オプションを構成できます。



[テクノロジー]

ドロップダウンリストで、プリンターをリモートコンピューターにリダイレクトする際に使用するテクノロジーを選択します。

- なし：プリンターリダイレクトを構成しません。
- RAS ユニバーサルプリントテクノロジー：RAS
ユニバーサルプリントテクノロジーを使用する場合は、このオプションを選択します。
- Microsoft ベーシックプリントリダイレクトテクノロジー：Microsoft Basic
印刷テクノロジーを使用する場合は、このオプションを選択します。
- RAS ユニバーサルプリントと Microsoft ベーシックリダイレクトテクノロジー：Parallels
RAS と Microsoft のテクノロジーを両方使用する場合は、このオプションを選択します。

RAS ユニバーサルプリントテクノロジー

[RAS ユニバーサルプリントテクノロジー] を選択した場合は、[リダイレクトプリンター] ドロップダウンリストで、リダイレクトするプリンターを選択する必要があります。

- すべて：クライアント側のすべてのプリンターがリダイレクトされます。
- デフォルトのみ：Windows のデフォルトプリンターのみリダイレクトされます。
- 指定したもののみ：
表示されるリストからリダイレクトするプリンターを選択します。このリストは、このオプションを選択した場合のみ選択可能な状態になります。

Microsoft ベーシックプリントリダイレクトテクノロジー

[Microsoft ベーシックプリントリダイレクトテクノロジー] を選択した場合は、リストからプリンターを選択して [編集] ボタンをクリックすることで、プリンターのプロパティを変更できます。ダイアログが開いたら、使用するプリンターの製造元とモデル番号を指定します。

デフォルトプリンターの設定

デフォルトのプリンター設定を構成するには、[デフォルトプリンターの設定を変更] ボタンをクリックします。

デフォルトのプリンターリストには、クライアントからリモートコンピューターにいつでもリダイレクトできる利用可能なプリンターが表示されます。このリストには、利用できるプリンターで使用される印刷テクノロジーも表示されます。このテクノロジーには、上記の [テクノロジー] セクションで選択した設定内容が反映されます。たとえば、テクノロジーを [RAS ユニバーサルプリントテクノロジー] に設定した場合、RAS ユニバーサルプリントを使用しているプリンターのみリストに表示されます。

デフォルトのプリンターを無効にするには、[<なし>] を選択します。クライアント側のデフォルトのローカルプリンターをリモートコンピューターにリダイレクトするには、[<デフォルトのローカルプリンター>] を選択します。[<カスタム>] を選択すると、リモートコンピューターにインストールされている可能性のあるカスタムプリンターを指定できます。[カスタム] テキストボックスに挿入したプリンター名に一致する最初のプリンターが、リモートコンピューターでデフォルトのプリンターとして設定されます。

[実際のプリンター名と合致すること] を選択すると、[カスタム] テキストボックスに挿入された名前が完全一致で検索されます。リモートプリンター名は元のプリンター名と異なる可能性があるため、注意してください。サーバーの設定またはポリシーによっては、ローカルプリンターがリダイレクトされないこともあります。

プリンターが強制的にデフォルトに設定される時間を指定できます。接続が確立された後、この時間内にデフォルトのプリンターが変更された場合、そのプリンターの設定はデフォルトに戻されます。

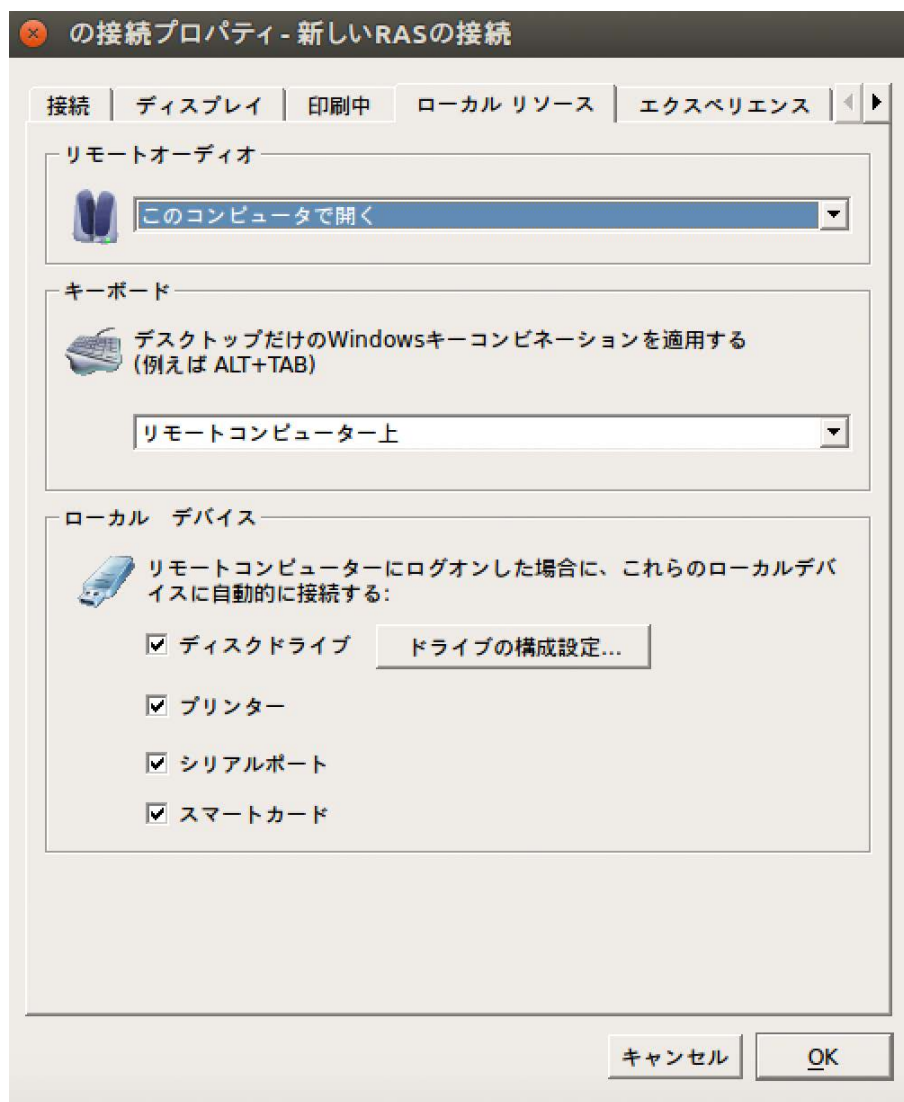
[ローカルのデフォルトプリンターが変更される場合、リモートのデフォルトプリンターを更新します]

オプションを選択すると、ローカルのデフォルトプリンターが変更された場合にリモートのデフォルトプリンターも自動的に変更されます。新しいプリンターは事前にリダイレクトされている必要があります。

ローカルリソース

[ローカルリソース]

タブページを使用して、リモートデスクトップでローカルリソースをどのように処理するかを構成します。

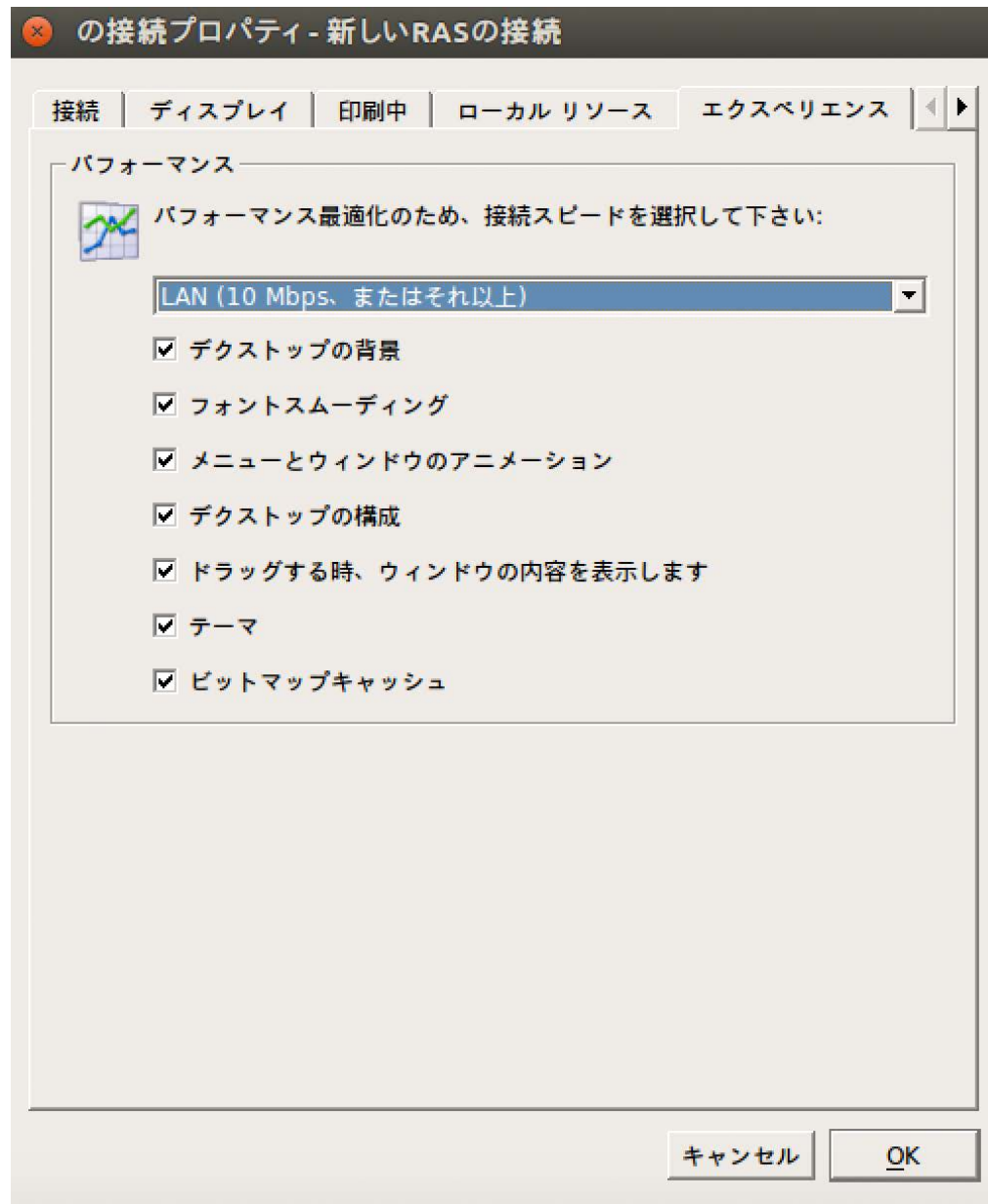


表示されるオプションは、標準の Microsoft
リモートデスクトップ接続を使用する場合に利用できるオプションと同じです。各オプション
はそれ自体がわかりやすい説明になっているため、必要に応じて各オプションを設定できます
。

エクスペリエンス

[エクスペリエンス]

タブページでは、接続速度を微調整して、リモートコンピューターへの接続のパフォーマンスを最適化できます。



通常、100 Mbps

以上のローカルネットワーク上でリモートコンピューターに接続する場合、すべてのエクスペリエンスオプションをオンにすることをお勧めします。

ネットワーク

プロキシサーバーを使用してリモートコンピューターに接続する必要がある場合は、[ネットワーク] タブページを使用してプロキシサーバーを構成します。

プロキシサーバーを構成するには、[プロキシサーバーの使用] オプションを選択し、次のリストからプロトコルを選択します。

- SOCKS4:
ネットワークファイアウォールのサービスを透過的に使用するには、このオプションを有効にします。
- SOCKS4A:
接続できないクライアントが宛先ホストの名前を解決してホスト名を指定できるようにするには、このオプションを有効にします。
- SOCKS5: 認証を使用して接続できるようにするには、このオプションを有効にします。
- HTTP 1.1: 標準の HTTP 1.1
プロトコル接続を使用して接続するには、このオプションを有効にします。

プロキシホストのドメイン名または IP アドレスとポート番号を指定します。

SOCKS5 および HTTP 1.1 プロトコルの場合は、[プロキシは認証を必要] を選択して、ユーザー資格情報を入力します。

認証

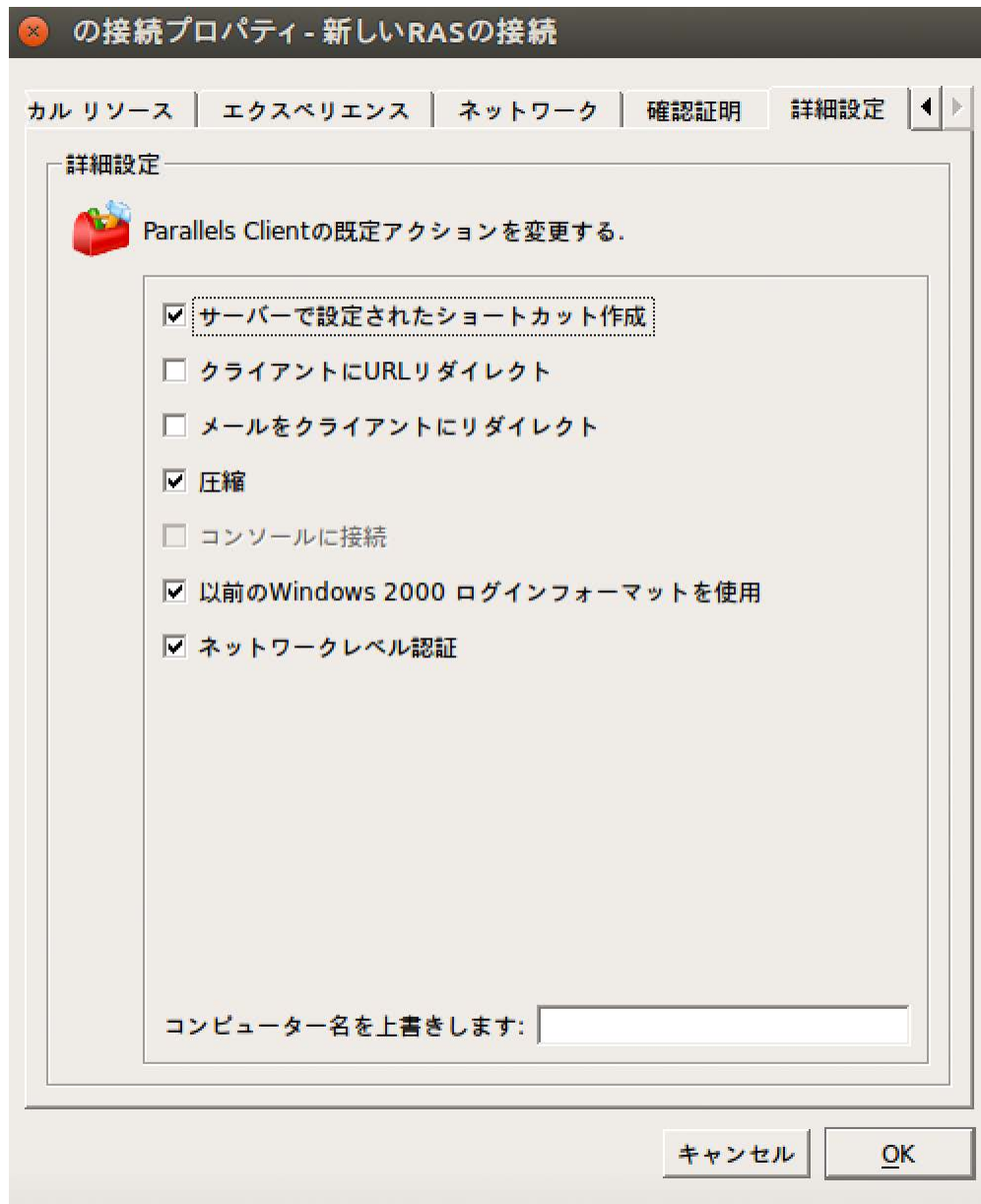
サーバーの認証が失敗したときの動作を指定するには、[確認証明] タブページを使用します。

[認証に失敗した場合] ドロップダウンリストで、次のオプションのいずれかを選択します。

- 接続: ユーザーは、サーバーの認証情報を無視して、接続を続けることができます。
- 警告:
ユーザーは認証情報について警告を受けますが、接続するかどうかの選択肢は残されています。
- 接続しない: ユーザーは接続できません。

詳細設定

[詳細設定] タブページを使用すると、デフォルトの動作または Parallels Client をカスタマイズできます。



次のプロパティを指定できます。

- サーバーで設定されたショートカット作成:
公開されたアプリケーションごとに、管理者はクライアントのデスクトップおよびスタートメニューに作成できるショートカットを構成できます。ショートカットを作成するには、このオプションをオンにします。ショートカットを作成しない場合は、このオプションをオフにします。
- クライアントに URL リダイレクト: 'http:'
リンクを開くときにローカルのウェブブラウザを使用する場合は、このオプションを有効にします。
- メールをクライアントにリダイレクト: 'mailto:'
リンクを開くときにローカルのメールクライアントを使用する場合は、このオプションを有効にします。
- 圧縮の有効化: 圧縮を有効にして接続効率を高めます。
- コンソールに接続:
このオプションは、リモートデスクトップセッションホストサーバーの管理に使用されます。これは、標準のリモートデスクトップ接続を /admin オプションを指定してコマンドラインから開始したときのように動作します。
- 以前の Windows 2000 ログインフォーマットを使用:
このオプションが選択されている場合は、レガシー (Windows 2000 より前) のログイン形式を使用できます。
- ネットワークレベルの認証:
ネットワークレベルの認証を有効にするには、このオプションをオンにします。この場合、クライアントは、サーバーへの接続前に認証を行う必要があります。

[コンピューター名を上書きします]

フィールドには、リモートデスクトップセッション中にコンピューターが使用する名前を指定します。このオプションが設定されている場合は、デフォルトのコンピューター名が上書きされます。ここで指定した名前は、サーバー側の管理者が設定したフィルターで使用されます。

RDP 接続の構成

既存の標準 RDP 接続のプロパティを変更するには、メインの Parallels Client ウィンドウで RDP 接続を右クリックして、コンテキストメニューの [接続プロパティ]

をクリックします。[接続プロパティ]

ダイアログボックスが開きます。ダイアログボックス内でタブページを使用してプロパティが機能ごとにグループ化されています。次のサブセクションでは、各タブページについて詳しく説明します。

接続

[接続] タブページでは、接続設定とログオン情報を指定できます。

× の接続プロパティ - 新しいリモート デスクトップ接続

接続 | ディスプレイ | ローカル リソース | プログラム | エクスベリエン

Connection Settings

Primary Connection 192.168.1.20

接続モード: ゲートウェイ モード

ポート: 3389

セカンダリ接続...

フレンドリ名前: My RDP Connection

ログオン

☐ オートログオン

認証タイプ: クレデンシャル

ユーザー名: Administrator

パスワード: *****

☒ 保存パスワード

ドメイン:

キャンセル OK

[接続設定] セクションで、次のプロパティを指定します。

- 3 [プライマリ接続] フィールドで、リモートコンピューターのホスト名または IP アドレスを指定します。

- 4 [ポート] フィールドには、デフォルトで TCP ポート 3389 が入力されています。これは RDP 接続の標準ポートです。リモートコンピューターでポート番号が変更されている場合、これを変更できます。
- 5 [フレンドリ名前] フィールドでは、任意の名前を選択して入力します。これにより、後で Parallels Client 内でサーバーを容易に特定できます。

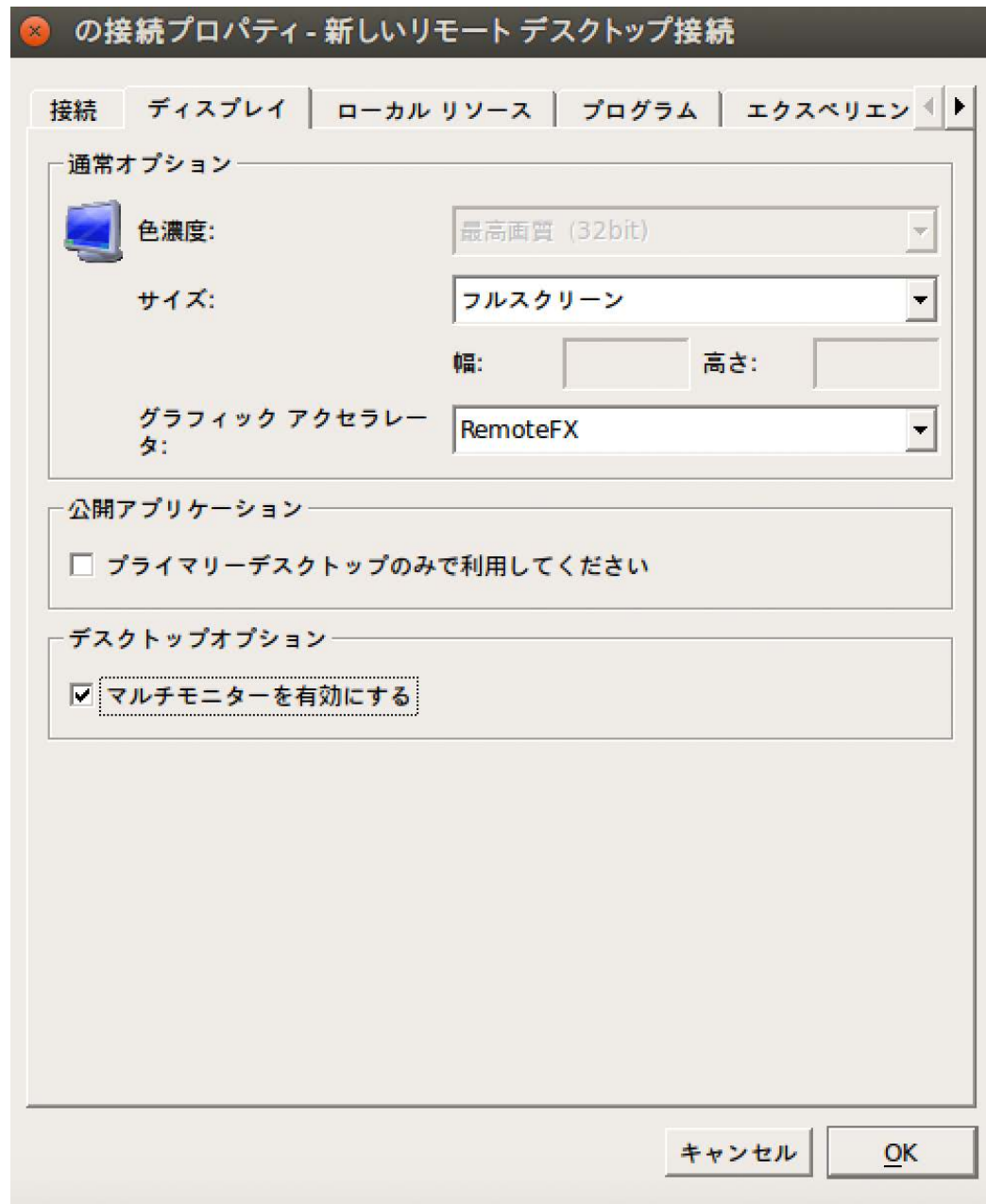
[ログオン] セクションで、次のプロパティを指定します。

- 1 [オートログオン] オプションを選択すると、Parallels Client は自動的に接続します。ユーザーがリモートサーバーに接続するたびに [ログオン] ダイアログが表示されることはありません。
- 2 [認証タイプ] ドロップダウンリストで、使用する認証方法を選択します。
 - 資格情報:
このオプションを選択し、ユーザー名、パスワード、ドメイン情報を入力します。リモートサーバーでは、この指定した資格情報を使用して認証が行われます。
 - スマートカード:
スマートカードを使用して認証を行う場合、このオプションを選択します。リモートサーバーに接続するときに、カードリーダーにスマートカードを挿入し、PIN を入力（要求された場合）します。
 - シングルサインオン: Parallels Client のインストール時に [シングルサインオン] モジュールをインストールした場合のみ、このオプションがリストに含まれます。ローカルシステムの資格情報を使用してリモートサーバーに接続するには、このオプションを選択します。

管理者向けの注記:許可された認証タイプを RAS Console の [接続] / [確認証明] で指定する必要があります。

表示

[ディスプレイ] タブページでは、表示オプションを構成できます。



[一般オプション]

セクションで、色深度、画面サイズなど、一般的な表示プロパティを指定します。カスタムの画面サイズを指定する場合、ドロップダウンリストで [カスタム] を選択し、[幅] および [高さ]

フィールドを使用してサイズを指定します。ドロップダウンリストから、使用するグラフィックアクセラレータを選択することもできます。

Linux

コンピューターに複数台のモニターを接続している場合は、[プライマリデスクトップのみで利用してください]

オプションを選択して、そのモニターでのみ公開済みのアプリケーションを表示できます。このオプションをオフにすると、接続しているすべてのモニターにアプリケーションを表示できます。

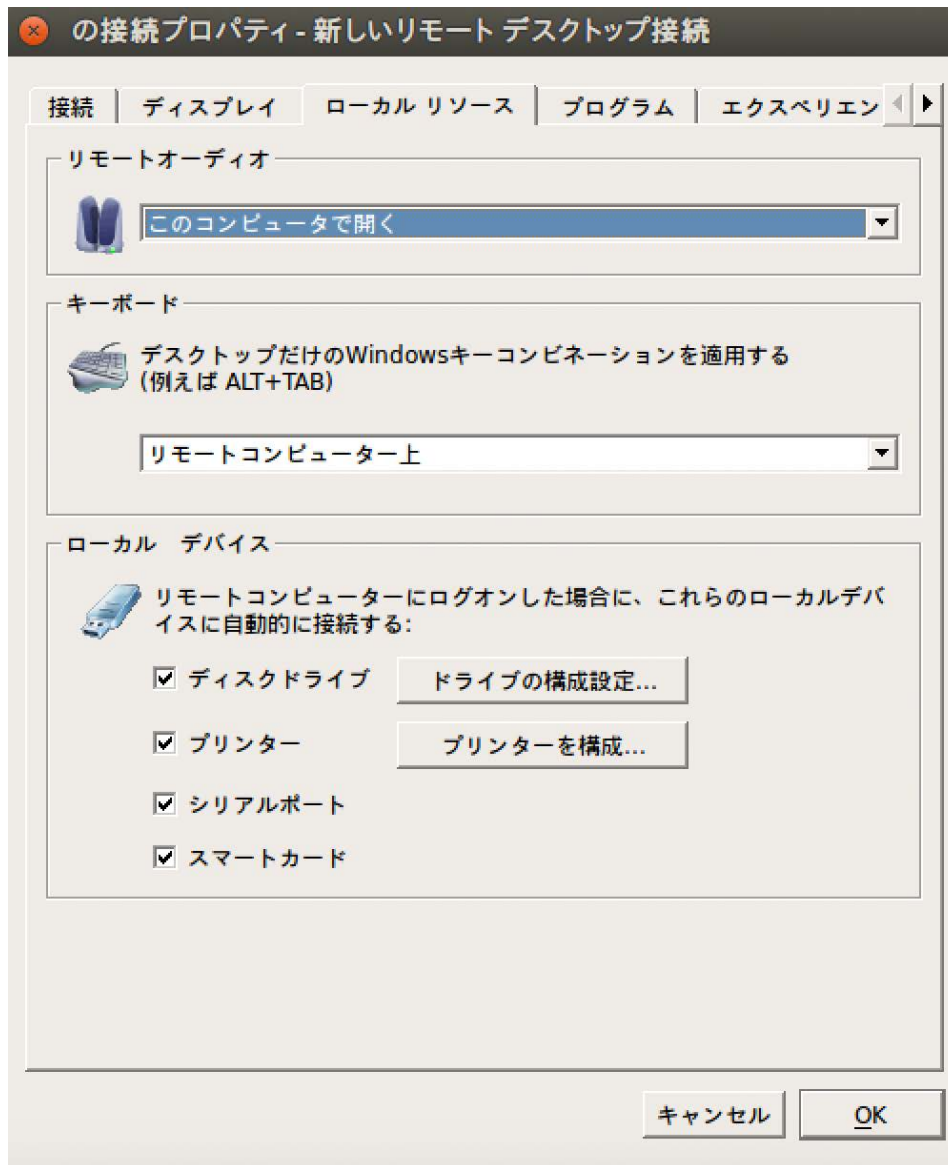
[マルチモニターを有効にする]

オプションを選択すると、接続しているすべてのモニターに公開デスクトップを表示できます（複数のモニターを所有している場合）。

ローカルリソース

[ローカルリソース]

タブページを使用して、リモートデスクトップでローカルリソースをどのように処理するかを構成します。



表示されるオプションは、標準の Microsoft リモートデスクトップ接続を使用する場合に利用できるオプションと同じです。各オプションはそれ自体がわかりやすい説明になっているため、必要に応じて各オプションを設定できます。

プログラム

[プログラム]

タブページでは、リモートコンピューターとの接続が確立されたとき、リモートコンピューターで自動的に起動されるプログラムを指定できます。



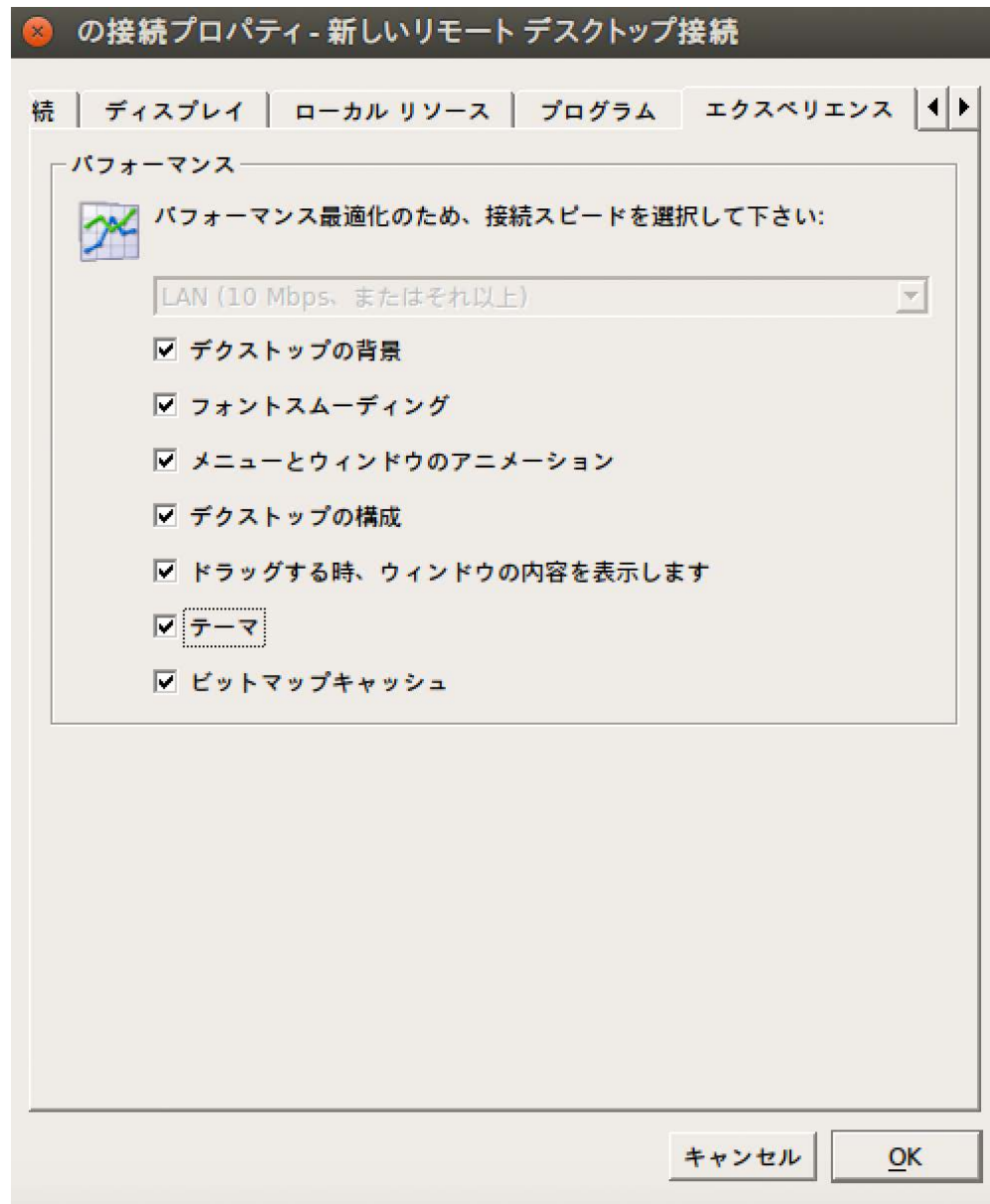
[接続後に次のプログラムを起動する]

オプションを選択してから、[プログラムのパスとファイル名] オプションおよび [次のフォルダーで起動する] オプションを指定します。

エクスペリエンス

[エクスペリエンス]

タブページでは、接続速度を微調整して、リモートコンピューターへの接続のパフォーマンスを最適化できます。



通常、100 Mbps

以上のローカルネットワーク上でリモートコンピューターに接続する場合、すべてのエクスペリエンスオプションをオンにすることをお勧めします。

ネットワーク

プロキシサーバーを使用してリモートコンピューターに接続する必要がある場合は、[ネットワーク] タブページを使用してプロキシサーバーを構成します。

プロキシサーバーを構成するには、[プロキシサーバーの使用] オプションを選択し、次のリストからプロトコルを選択します。

- SOCKS4:
ネットワークファイアウォールのサービスを透過的に使用するには、このオプションを有効にします。
- SOCKS4A:
接続できないクライアントが宛先ホストの名前を解決してホスト名を指定できるようにするには、このオプションを有効にします。
- SOCKS5: 認証を使用して接続できるようにするには、このオプションを有効にします。
- HTTP 1.1: 標準の HTTP 1.1
プロトコル接続を使用して接続するには、このオプションを有効にします。

プロキシホストのドメイン名または IP アドレスとポート番号を指定します。

SOCKS5 および HTTP 1.1 プロトコルの場合は、[プロキシは認証を必要] を選択して、ユーザー資格情報を入力します。

認証

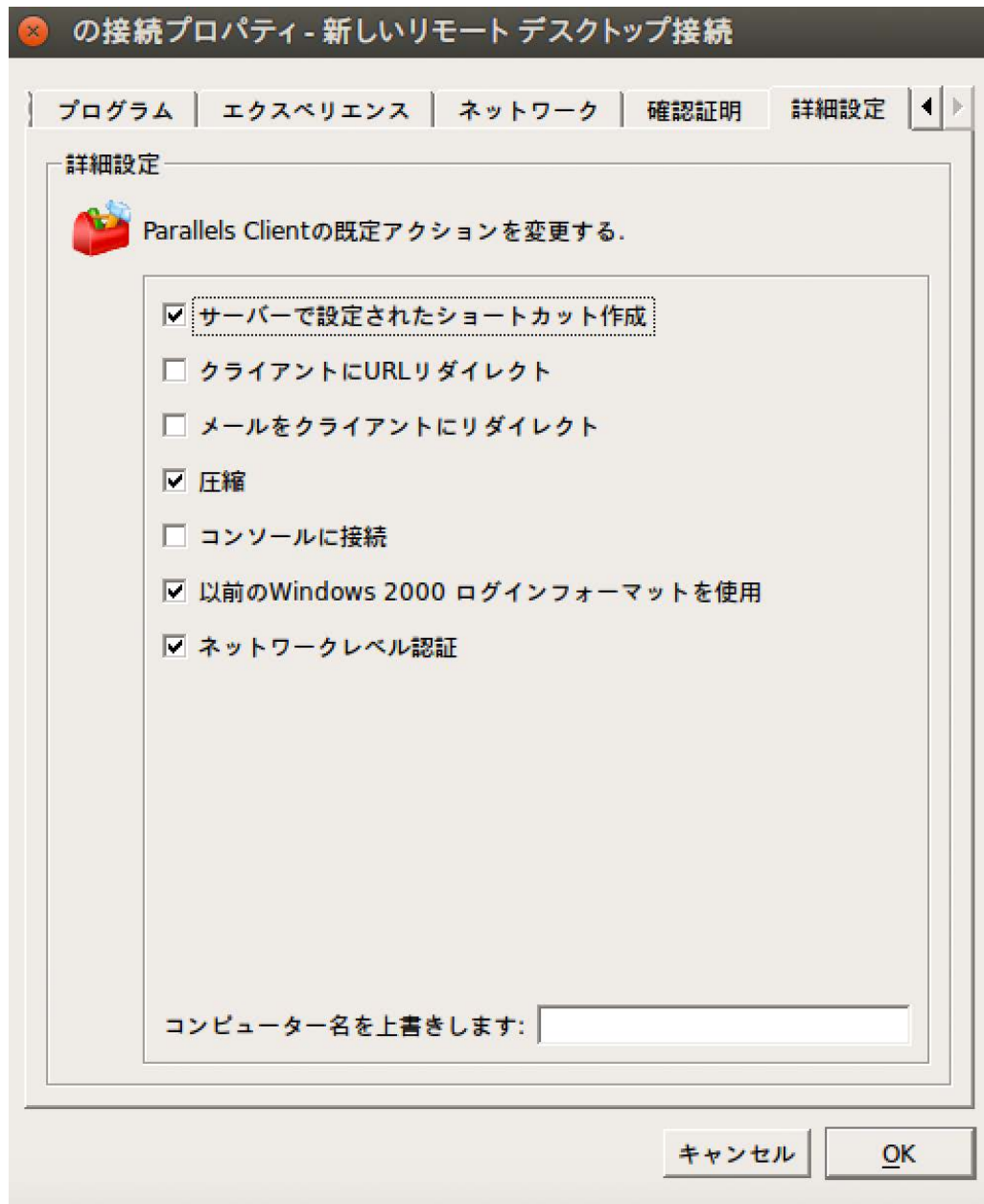
サーバーの認証が失敗したときの動作を指定するには、[確認証明] タブページを使用します。

[認証に失敗した場合] ドロップダウンリストで、次のオプションのいずれかを選択します。

- 接続: ユーザーは、サーバーの認証情報を無視して、接続を続けることができます。
- 警告:
ユーザーは認証情報について警告を受けますが、接続するかどうかの選択肢は残されています。
- 接続しない: ユーザーは接続できません。

詳細設定

[詳細設定] タブページを使用すると、デフォルトの動作または Parallels Client をカスタマイズできます。



次のプロパティを指定できます。

- サーバーで設定されたショートカット作成:
公開されたアプリケーションごとに、管理者はクライアントのデスクトップおよびスタートメニューに作成できるショートカットを構成できます。ショートカットを作成するには、このオプションをオンにします。ショートカットを作成しない場合は、このオプションをオフにします。
- クライアントに URL リダイレクト: 'http:'
リンクを開くときにローカルのウェブブラウザを使用する場合は、このオプションを有効にします。
- メールをクライアントにリダイレクト: 'mailto:'
リンクを開くときにローカルのメールクライアントを使用する場合は、このオプションを有効にします。
- 圧縮の有効化: 圧縮を有効にして接続効率を高めます。
- コンソールに接続:
このオプションは、リモートデスクトップセッションホストサーバーの管理に使用されます。これは、標準のリモートデスクトップ接続を /admin オプションを指定してコマンドラインから開始したときのように動作します。
- 以前の Windows 2000 ログインフォーマットを使用:
このオプションが選択されている場合は、レガシー (Windows 2000 より前) のログイン形式を使用できます。
- ネットワークレベルの認証:
ネットワークレベルの認証を有効にするには、このオプションをオンにします。この場合、クライアントは、サーバーへの接続前に認証を行う必要があります。

[コンピューター名を上書きします]

フィールドには、リモートデスクトップセッション中にコンピューターが使用する名前を指定します。このオプションが設定されている場合は、デフォルトのコンピューター名が上書きされます。ここで指定した名前は、サーバー側の管理者が設定したフィルターで使用されます。

グローバルオプションの構成

Parallels Client のグローバルオプションを構成するには、[オプション] ツールバー項目をクリックします。これにより、[オプション] ダイアログが開きます。



詳細設定

[詳細設定] タブページで、次の各詳細オプションを構成できます。

- 言語: グラフィカルユーザーインターフェースの言語を選択できます。
- 常に手前に表示:
このオプションをオンにすると、ランチャーが他のアプリケーションの背後に隠れることがなくなります。
- サーバーの証明書が認証されていなくても警告を発しない: SSL
経由で接続するとき、認証情報が検証されなければ、警告メッセージが表示されます。このオプションを有効にすると、この警告メッセージを無効にすることができます。
- フォルダーページの表示:
このオプションを有効にすると、サーバーで構成されたアプリケーショングループの階層とともに、利用可能なフォルダーが表示されます。
- 閉じるとき最小化する: [閉じる] ボタンをクリックするかエスケープキーを押したときに Parallels Client をシステムトレイに配置するには、この機能を有効にします。

キーボードレイアウト

[キーボードレイアウト]

タブページでは、グラフィカルユーザーインターフェースで使用するキーボードレイアウトを選択できます。[システムのデフォルト]

を選択してデフォルトのレイアウトを使用するか、[ユーザー定義]
を選択してリストからキーボードを選択します。

一般



[一般] タブページでは、一般オプションを構成できます。

- ログ: [有効]
オプションでは、ログを有効化または無効化します。ログを表示するには、[ログを表示] ボタンをクリックします。ファイルから情報を削除するには、[ログファイルクリア] ボタンをクリックします。

- 起動時にアップデートをチェックする:
このオプションは、管理権限がある場合に限り利用できます。このオプションが選択されている場合、Parallels Client は起動時に利用可能な Parallels Client のアップデートを確認します。[アップデートをチェック]
ボタンをクリックすれば、いつでも利用可能なアップデートがあるかどうか確認できます。

RAS 接続の使用

Parallels Remote Application Server に接続するには、[接続] リストで接続をダブルクリックします（または右クリックして [接続] を選択します）。

複数のアクティブな接続（Remote Application Server と標準 RDP の両方）を同時に確立できます。Parallels Client でアクティブな接続を切り替えるには、左側のペインで切り替え先の接続をクリックするか、右側のペインで対応するタブページをクリックします。

アクティブな接続を右クリックして次の操作を実行します。

- 接続: アクティブな接続の場合、このメニュー項目は無効になります。
- 更新:
このオプションを使用して、セッション、および右側のペインの公開済みのリソースの表示を最新の状態に更新します。Parallels Remote Application Server 側で変更があった場合、Parallels Client 側で変更内容が反映されます。
- 接続プロパティ:[接続プロパティ]
ダイアログが表示され、接続プロパティを確認できます（変更はできません）。接続プロパティを変更するには、まず接続を解除する必要があります。
- 削除: 接続を削除します。接続が削除される前に確認ダイアログが表示されます。
- パスワード変更: リモートサーバーのユーザーパスワードを変更できます。Parallels Client の [ログオン]
ダイアログが表示されたら、現在のパスワードを指定します。次に、[パスワード変更] ダイアログが表示され、新しいパスワードを指定できます。
- 表示されているアプリケーション全部のショートカット作成: メインの Parallels Client ウィンドウの [公開済みのリソース]
ペインに表示されているすべてのアプリケーションについて、ローカルデスクトップ上にショートカットを作成します。
- デスクトップからショートカットを削除する:
[表示されているアプリケーション全部のショートカット作成]
メニュー項目をクリックして以前作成したショートカットをローカルデスクトップから削除します。
- ログオフ: Parallels Client をセッションからログオフします。

- 切断: 選択された接続を切断します。

RDP 接続の使用

リモートコンピューターに接続するには、RDP 接続をダブルクリックします（または、右クリックして [接続] を選択します）。

複数のアクティブな接続（標準 RDP と Remote Application Server の両方）を同時に確立できます。Parallels Client でアクティブな接続を切り替えるには、左側のペインで切り替え先の接続をクリックするか、右側のペインで対応するタブページをクリックします。

アクティブな RDP 接続を右クリックすると、次のアクションを実行できます。

- 接続: アクティブな接続の場合、このメニュー項目は無効になります。
- 接続プロパティ: [接続プロパティ]
ダイアログが表示され、接続プロパティを確認できます（変更はできません）。接続プロパティを変更するには、まず接続を解除する必要があります。
- 削除: 接続を削除します。接続が削除される前に確認ダイアログが表示されます。
- ショートカット作成: ローカルデスクトップにこの接続のショートカットを作成します。
- デスクトップからショートカットを削除する: [ショートカット作成]
メニュー項目をクリックして以前作成したショートカットをローカルデスクトップから削除します。
- 切断: 接続を切断します。

Parallels Client

設定のエクスポートおよびインポート

現在の Parallels Client

設定をファイルにエクスポートとしてバックアップを作成できます。また、エクスポートした設定を、異なるコンピューターにインストールされた Parallels Client にインポートすることもできます。以下の設定をエクスポートできます。

- 個々のすべての接続プロパティを含む、既存のすべての接続。
- Parallels Client 基本設定（グローバルオプション）。

現在の Parallels Client 設定をエクスポートするには、メインメニューで [ファイル] をクリックし、[エクスポート設定] をクリックします。開いたダイアログで、ファイル名とエクスポート先のフォルダーを入力します。[保存] をクリックして設定をエクスポートします。ファイルが “.2xc” という拡張子付きで保存されます。

設定をインポートするには、[ファイル] > [インポート設定] をクリックします。開いたダイアログで、“.2xc” ファイルを選択し、[開く] をクリックします。ファイルに保存された Parallels Client 設定によって現在の Parallels Client 設定が上書きされます。

Parallels Client コマンドラインインターフェース

使用法

```
/opt/2X/Client/bin/appserverclient -s Server -u User [options]
```

一般オプション

一般オプション:

-m: 動作モード

2X Application Server ゲートウェイアクセスクライアント (デフォルト) の場合は 2G

2X Application Server ダイレクトアクセスクライアントの場合は 2D

2X Application Server アプリケーションリストの場合は AL

Microsoft ターミナルサーバークライアントの場合は MS

Microsoft ターミナルサーバーフルスクリーンクライアントの場合は MF

Microsoft

ターミナルサーバーフルスクリーンクライアントで、すべてのモニターを使用する場合は MX

-s: server[:port] (デフォルトのポートは、2G および 2D モードの場合は 80、MS および MF モードの場合は 3389)

-s: ssl://server[:port] セキュアアクセスクライアント (TLS/SSL)

-s: altserver[:port] (デフォルトのポートは、2G および 2D モードの場合は 80、MS および MF モードの場合は 3389)

-u: ユーザー名: ドメインを含めることもできる: -u user@host.domain または -u user@ntdomain

-p: パスワード

-d: ドメイン

-a: 起動するアプリケーション

-f: 作業フォルダー

-i: 2xa ショートカットファイル

2xa ショートカットファイルは Parallels Remote Application Server
ウェブインターフェースを介して利用可能で、公開済みのアプリケーションの設定を含む。

-o: アプリケーションリスト出力ファイルへのフルパス

-x: プロキシ。次のいずれかを指定:

socks4://[username@]proxy[:port]

socks4a://[username@]proxy[:port]

socks5://[username[:password]@]proxy[:port]

http://[username[:password]@]proxy[:port]

RDP オプション

RDP オプション:

-H: クライアントホスト名。

-T: デスクトップ接続のウィンドウタイトル。

-w: デスクトップ幅をオーバーライドする。-h パラメーターと対で使用する。

-h: デスクトップの高さをオーバーライドする。-w パラメーターと対で使用する。

-g, -geometry {width}x{height} [{+-} {xoff} [{+-} {yoff}]]:

標準アプリケーション形状は、-m MS パラメーターとのみ使用する。

-c: ビット数で表された接続の色深度 (デフォルト: 24 ビット)

-l: プライマリモニターのみにシームレスなアプリケーション配置を強制する。

-X: 指定した id を持つ別のウィンドウに埋め込まれる。-m MS
パラメーターとのみ使用する。

-K: ウィンドウマネージャーのキーバインディングを保持する。

-e: 以下の 1 つ以上の値の論理和で指定する RDP エクスペリエンス:

0x7F: すべてを無効にする

0x01: 背景を無効にする

0x02: フルウィンドウドラッグを無効にする

0x04: メニューアニメーションを無効にする

0x08: テーマを無効にする

0x20: カーソルシャドウを無効にする

0x40: カーソルの点滅を無効にする

0x80: フォントスムージングを無効にする

0x00: 何も無効にしない (デフォルト)

-z: RDP 圧縮

0x00: 何も無効にしない (デフォルト)

0x01: 圧縮を無効にする

0x02: RDP4 圧縮に限定する

0x03: RDP5 圧縮に限定する

-t: 最大ネットワークタイムアウト (秒) (デフォルトは 5 秒)

-l: HEX 形式のロケール識別子 (デフォルトは 0x0409 - 英語 (米国))

--admin または -q: 管理サーバーに接続

デバイスオプション

デバイスオプション:

-P: リダイレクトプリンター (このフラグは繰り返し指定可能)。次のいずれかを指定する。

"printcap": '/etc/printcap' からプリンターを使用する

ドライバー名をプリンターコメントとして含めるよう `printcap` が構成されている場合に、このオプションを使用する

`lp0|drivername:rm=clientname:rp=lp0:`

`"printername"`: デフォルトのプリンタードライバーを使用する

`"printername=drivername"`: ドライバー名を指定する

-S: サウンドのリダイレクト。次のいずれかを指定する。

`"off"`: サウンドをオフにする (デフォルト)

`"local"`: クライアント側で再生するときの音質を指定する

`"normal"`: 通常の音質

`"good"`: 良好の音質 (デフォルト)

`"verygood"`: 高音質

`"remote"`: サーバー側に依存する

-D: ドライブのリダイレクト (このフラグは繰り返し可能)。次を指定する。

`"remotename=localpath"`

-O [option]:

シリアルポートのリダイレクト (このフラグはオプション付きで繰り返し指定可能)。

`"off"`: ポートのリダイレクトを無効にする (デフォルト)

`"auto"`: `COM1=/dev/ttyS0`、`COM2=/dev/ttyS1`、`LPT1=/dev/lp0`

またはローカルのデバイスパスをオーバーライドするオプション: `COM1=/dev/debugtty`

-C: スマートカードリーダーのリダイレクト。この機能を使用するには、`pcscd` スマートカードマネージャーがインストールされている必要がある。

-U [options]: URI のリダイレクト。オプションは以下のカンマ区切りリスト。

`"off"`: URI リダイレクトを無効にする (デフォルト)

`"url"`: URL をリダイレクトする (`http:` と `https:`)

`"mailto"`: メールをリダイレクトする (`mailto:`)

URL とメールの両方をリダイレクトする場合は、`"url,mailto"` と指定する

-k [command]:

アクティブなセッション内で特殊なコマンドを実行する。コマンドは次のいずれか。

`"logoff"`: 公開アプリケーションセッションを正規の手順に従ってログオフする

`"disconnect"`: セッションを正規の手順に従って切断する

その他のオプション

その他のオプション:

- v: バージョン情報を出力する
- help または -?: ヘルプを表示する

例

以下に、Linux 用 Parallels Client コマンドラインインターフェースの使用例を示します。

```
appserverclient -s<Server IP> -a<"Application Name"> -u<User Name>
```

```
appserverclient -s192.168.0.1 -a"Internet Explorer" -uAdministrator
```

この場合、アプリケーションを読み込む前にログオンすることを要求されます。

```
appserverclient -s<Server IP> -a<"Application Name"> -u<User Name> -p<Password>
```

```
appserverclient -s192.168.0.1 -a"Media Player" -uAdministrator -ppassword
```

この場合、パスワードが正しければ、ログオン画面は表示されません。

注意: アプリケーション名は大文字と小文字を区別し、引用符で囲む必要があります。例:
"Notepad"、"Internet Explorer"、"Media Player"。

使用可能なロケール識別子の一覧

識別子	名前
0x0401	アラビア語 (サウジアラビア)
0x0403	カタロニア語 (スペイン)
0x0404	中国語 (台湾)
0x0804	中国語 (中国)
0x0405	チェコ語 (チェコ共和国)
0x0406	デンマーク語 (デンマーク)
0x0407	ドイツ語 (ドイツ)
0x0807	ドイツ語 (スイス)
0x0408	ギリシャ語 (ギリシャ)
0x0409	英語 (米国)
0x0809	英語 (英国)

0x0C0A	スペイン語 (スペイン - モダンソート)
0x0425	エストニア語 (エストニア)
0x040B	フィンランド語 (フィンランド)
0x040C	フランス語 (フランス)
0x080C	フランス語 (ベルギー)
0x0C0C	フランス語 (カナダ)
0x100C	フランス語 (スイス)
0x040D	ヘブライ語 (イスラエル)
0x040E	ハンガリー語 (ハンガリー)
0x0410	イタリア語 (イタリア)
0x0411	日本語 (日本)
0x0412	韓国語 (韓国)
0x0427	リトアニア語 (リトアニア)
0x0426	ラトビア語 (ラトビア)
0x0413	オランダ語 (オランダ)
0x0813	オランダ語 (ベルギー)
0x0414	ノルウェー語 (ノルウェー)
0x0415	ポーランド語 (ポーランド)
0x0416	ポルトガル語 (ブラジル)
0x0816	ポルトガル語 (ポルトガル)
0x0418	ルーマニア語 (ルーマニア)
0x0419	ロシア語 (ロシア)
0x041A	クロアチア語 (クロアチア)
0x041B	スロバキア語 (スロバキア)
0x041D	スウェーデン語 (スウェーデン)
0x041E	タイ語 (タイ)
0x041F	トルコ語 (トルコ)
0x0424	スロベニア語 (スロベニア)
0x042A	ベトナム語 (ベトナム)
0x042D	バスク語 (スペイン)
0x040F	アイスランド語 (アイスランド)

インデックス

L

Linux 用 Parallels Client のインストール - 5

Linux 用 Parallels Client の使用 - 12

Linux 用 Parallels Client の構成 - 9

P

Parallels Client

 コマンドラインインターフェース - 44

Parallels Client

 設定のエクスポートおよびインポート - 43

R

RAS 接続の使用 - 42

RAS 接続の構成 - 15

RDP オプション - 45

RDP 接続の使用 - 43

RDP 接続の構成 - 28

ア

アップデートの確認 - 10

エ

エクスペリエンス - 25, 35

グ

グローバルオプションの構成 - 39

シ

システム要件 - 5

ス

スタートアップ - 5

そ

その他のオプション - 48

デ

デバイスオプション - 46

ネ

ネットワーク - 26, 36

ブ

プログラム - 34

ロ

ローカルリソース - 24, 33

一

一般オプション - 44

例

例 - 48

印

印刷 - 21

接

接続 - 16, 29

新

新しい接続の追加 - 12

表

表示 - 19, 31

詳

詳細設定 - 27, 37

認

認証 - 26, 36